



↑35周年の記念に桐生楽山さん(雅号・小幡の桐生佳信さん・中央)の書をクチーニ市長(左)へ手渡す茂原町長

第10次チエルタルド市青年使節団滞在記 7/29～8/4

両市町で祝う 35周年

**交流の継続と発展を祈念
姉妹都市協定締結35周年
記念祝賀会開催**

イタリア・チエルタルド市からジャヤーコモ・クチーニ市長を団長とした第10次となる青年使節団(13歳から18歳までの10人の団員と随行人4人)が7月29日に来町しました。
7月31日には姉妹都市協定締結35周年記念祝賀会が開かれ、長年の交流の歩みを振り返るとともに今後の交流の継続と発展に向けての協力を再確認しました。



→チエルタルドの風景や自然が多く描かれた絵画は、町内の小中学校に展示されます



記念絵画展「イタリアの友人から届いた贈り物」開催

35周年を記念した絵画展が8月1日から19日まで、長岡今朝吉記念ギャラリーで開かれました。イタリア・チエルタルド市の小・中学生が描いた絵画83点が展示され、オープニングセレモニーには、クチーニ市長をはじめとする使節団の随行人も参列し、テープカットを行いました(左写真)。



木工藝ギャラリー清雅-SEIGA-



かんら保育園



甘楽中学校

青年使節団員は同市を訪問する町中学生国際交流研修団員の家庭にホームステイし、日本の文化や生活習慣を体験しました(受入家庭は6・7ページで紹介)。滞在中は使節団全員で甘楽中学校、かんら保育園などの施設を見学したり、中学生研修団との交流も深めました。
また、随行人は、町内企業の視察や6月に同市で展覧会に出展した人間国宝・名誉町民の須田賢司さん(小幡)のギャラリーも訪問しました。

咲き続ける交流の花



第10次チエルタルド市青年使節団は、滞在中に日伊のお菓子作り交流などで町の中学生と交流し、友好の輪を広げました(左写真)。
 今回、団員10人の受け入れにご協力いただいたホストファミリーの皆さん(第17次チエルタルド市訪問中学生国際交流研修団員の家族)の感想を紹介します。



ティラミスとみたらし団子を作って交流した日伊お菓子作り交流会。チエルタルドの使節団員は、日本とイタリアの国旗や風景をかたどったティラミスを披露してサプライズ。初めて食べるみたらし団子には「Buono! (おいしい)」の声がかえりました。



上條雅人さん家族(福島)

子どもたちは受け入れをととても楽しみにしていました。男の子の兄弟だったため、男の子率の高いわが家はすぐに仲良くなり、本当に兄弟が2人増えたようでした。

言葉や食事、気候の不安もありましたが、彼らからも積極的にコミュニケーションをとってくれ、本当に楽しくあっという間にサヨナラの日が来てしまいました。

今でも2人のことは家族での会話に必ず出てきます。笑顔が印象的な2人との時間は家族の大切な宝物になりました。



田畑法幸さん家族(福島)

受け入れ前は会話や食事など心配もありました。でも対面式でかわいい笑顔で手を振ってくれた2人はすぐわが家に打ち解けてくれました。下の子どもたちも積極的に英単語や日本語で話しかけ、みんなでいつも楽しそうに話したり遊んだりしていました。その姿を見て、コミュニケーションとは仲良くなりたい気持ちとほんの少しの勇気だと学びました。

2人と過ごした1週間はとても楽しい毎日でした。お別れの日、ハグをしながら「またね」と言って涙を見せた2人に感謝でいっぱいです。



浅川秀人さん家族(白倉)

わが家に来てくれたのは娘と同年のかわいい女の子2人。会話はほぼイタリア語でしたが、スマホ翻訳で大丈夫でした。2人は日本の食、遊び、さまざまな日常生活、文化体験、私たちを見習いいろいろとチャレンジしてくれました。たくさんコミュニケーションで心が通じ合え、ほんと楽しかった！と思えるあっという間の一週間でした。子どもたちにはこの貴重な経験を将来・人生にいかしてもらえたらすてきなことだと思います。また、今回のホームステイでかかわれたたくさんの仲間との出会いにも感謝します。



山崎純男さん家族(庭谷)

ドキドキ初受入、わが家にイタリアの2人の男子が来てくれました。

食事や会話、生活習慣の違いに不安がありましたが、何とか片言のイタリア語にジェスチャー、英語で会話することができました。トランプをわが家の子どもと4人で楽しんでいるのを見て、うれしかったです。本当に毎日が楽しく、すてきな体験ができました。

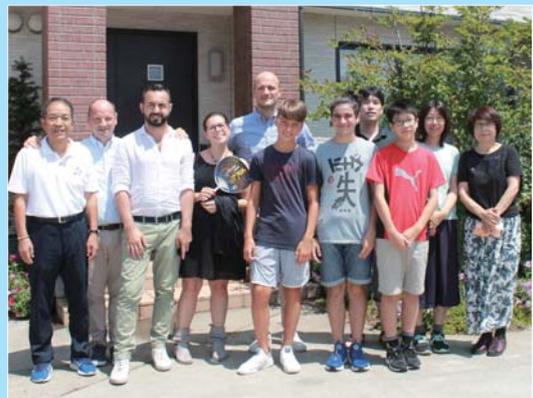
最後の日に絵はがきをもらい、そこには「GOS HINSETSUNI ARIGATŌGOZAIMASHITA」と書いてあり、とても安心し、とても感動しました。



↑最後の夜にダンスで盛り上がる両市町の子もたち
↓ホストファミリーと別れのあいさつ



町の中学生国際交流研修団は8月14日から24日までイタリアを訪問し、チェルタルド市でホームステイを体験しました。異国の文化に触れた中学生の様子と感想は10月号で紹介します。



近藤龍一さん家族(金井)

対面式から笑顔で手を振っていた2人を迎え入れ、ホームステイが始まりました。最初は会話集と翻訳アプリで話していましたが、英語でのコミュニケーションもOKでした。また、2人の緊張も、息子とのWii U、卓球、カードゲームなどでリラックスできたようで、食事もうめん、天ぷらうどん、赤飯などの日本食にチャレンジしておいしい！と言ってくれました。

受け入れ抽選で息子が引き当てた“男子2番くじ&ガッツポーズ”。このおかげで、かけがえのない経験をすることができました。